



探究活動の成果を発表する高校生

平和探究 高校生が発表

わだつみのこえ80年の会 松本の集いに市民100人

中信地区の高校教員や高校生らでつくる「わだつみのこえ80年の会」(塩野英雄代表)は23日、松本市蟻ヶ崎3の深志教育会館で「わだつみのこえ戦後80年の集い」を開いた。太平洋戦争中に特攻死した池田町出身の上原良司(1922〜45)をきっかけに戦争と平和について学んできた活動成果を高校生が披露し、市民ら約100人が耳を傾けた。

(鎌倉 希)

戦後80年

松本第一、松本深志、松本県ヶ丘の3校が発表した。深志の2年生3人は、若い世代

にも繰り返し返されるのはなぜか、考えてもらえばと投げ掛けた。第一は身近な戦跡や戦争加害国としての日本の側面について、県ヶ丘は個人の探究成果や、相手の立場で主観的に考える「エンパシープロジェクト」について紹介した。

続くシンポジウムでは生徒や教員、基調講演した戦跡カメラマン・安島太佳由さんらが登壇。生徒は「考えの違

を動画にまとめ「戦争のきっかけには共通点がある。それを知って相手の気持ちを理解する

ことが大事」「活動を通じ戦争について考えるきっかけが広がる」などと話していた。塩野代表は「高校生が自分の思いを意欲的に発言してくれたこ

とがうれしい。今後ともつないでいく活動にできるかどうか勝負となる」と力を込めた。